

[028] 健康科学表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10782>

出版情報：健康科学. 28, 2006-03-25. 九州大学健康科学センター
バージョン：
権利関係：

JOURNAL OF HEALTH SCIENCE

Vol.28

CONTENTS

ORIGINALS

Gradual reduction in ambient temperature of about 5 °C does not influence physiological and hormonal response to prolonged exercise
Ogaki T, Fujishima K, Hotta N, Saito A and Migita T 1

Role of lower intensity part of exercise on linearity between oxygen uptake and work rate during incremental exercise in ramp function.
Hayashi N and Yoshida T 7

Understanding the Impact of Health Policy:10% Co-payments for Medical Services Reduce Compliance with Necessary Care Among Elderly Patients with Chronic Disease in Japan
Babazono A, Miyazaki M, Une H, Yamamoto E, Tsuda T, Mino Y and Hillman AL 15

REPORT

Brugada Syndrome Detected by Annual Health Check in Kyushu University Staff
Yasuda S, Yasuda Y, Deguchi T, Takahashi Y, Todaka K, Tabata H, Iwamoto T, Zushi H, Maruyama T and Uezono K 25

編 者 堀 江 一 郎

九州大学 健康科学センター

ISSN 0387-7175

健康科学

第28巻



九州大学 健康科学センター

2006年

健康科学

九州大学健康科学センターは九州大学保健体育学教室と同保健管理センターを母体として昭和53年4月1日から発足した。本誌は九州大学体育学研究（第1巻第1号～第5巻第5号：通巻第25号）および九州大学保健管理センター紀要（第1巻～第4巻）を引き継ぐものである。上の題字は「健康科学」第1巻から第19巻まで使用され、初代の健康科学センター長 武谷健二元九州大学長（元医学部教授）によるものである。



人間が姿勢よく立って歩くさまを「健」という。歩くふたりの間に横たわる二重らせんは、“Read Nature Not Books”と刻まれている。DNAの生命の糸は、普遍の記号でつづられたヒトと生物たちの物語、温故の手がかり、知新の源泉である。

砂漠の朝、太陽が昇る。巨大な日輪が始めてから地平を離れるまでの時間に、人が歩いた平均距離を、古代バビロニアンはスタディオンと定めた。この単位で古代人たちは地理を測り旅程を考えた。地球の全周は25万スタディアと記されている。人間そのものが社会活動の基準にすえられた時代があった。世紀で刻むにはあまりにも巨大な進化の流れ、そのなかをヒトは歩きつづけてきた。

「歩けないヒト」のためには医学が生まれた。現代文明における「歩かなくなったヒト」を反省し未来を拓くため、「歩くヒト」の健康科学は、物質ではなく生命に、神よりは人間に、具体具象の基盤、新しいスタディオンを探るものである。夜の闇をたちきる黎明、新たなスタディオンの刻まれるときである。